

## ■6月3日 第16回定期総会を開催

6月3日、アルカディア市ヶ谷私学会館において、第16回ふるさと応援団木島平会総会を開催しました。

当日は、会員29名と早稲田大学わせだいらのOB及び学生6名、木島平村の日墓村長、森議長はじめ、18名の村の皆様をお迎えして、定期総会が行われました。

総会では、①平成28年度事業報告及び決算について、②平成29年度事業計画及び予算について議事が行われ、いずれも原案どおり可決されました。(詳細次頁)

また、報告事項として、木島平村と早稲田大学の連携事業から派生したサークル『わせだいら』のOBを正会員として本会に迎え、共に活動し、新たな取組等を推進していくことを確認しました。若い力が本会に加わることにより、新たな取組等による活動の広がりが期待されます。

終了後、同会場において、親睦交流会が行われ、久しぶりにあった友人や来賓の皆さんとの昔話に花を咲かせるとともに、わせだ



参加者全員で記念撮影

いらOBとの連携の仕方についても様々なアイデアが提案され、ふるさと木島平村の活性化について、熱意のある意見交換が行われていました。

最後には、「村歌 栄行け木島平よ」、「県歌 信濃の国」、「木島平中学校校歌」を熱唱し、楽しいひと時もあつという間に過ぎていきました。

今後は、計画に沿って事業を進めて参りますが、「会報部会」「調布・わせだいら部会」「ツアー部会」の3部会の活動に加え、「わせだいらOB部会」の推進を更に図っていきます。

また、平成30年1月20日には『新年親睦交流会』が予定されていますので、今からご予定いただき、積極的な参加をお願いします。



藤原國平 会長



日墓正博 村長

**会報原稿募集中!**

**【毎月5日までに左記へ送付ください。】**

【送付先】〒389

2392

木島平村役場内 ふるさと応援団事務局

FAX 0269824121

✉ seisaku@vill.kijimadaira.lg.jp

■平成29年度事業計画

期日	内容	場所
H28. 11. 17(金)	役員会	アルカディア市ヶ谷
H29. 1. 20(土)	新年親睦交流会	アルカディア市ヶ谷
H29. 3. 2(金)	役員会	アルカディア市ヶ谷
毎月	広報きじま平及びふるさと応援団会報の送付	
随時	*木島平村のPR等、村の活性化に関する活動 *部会の開催	

■平成29年度収入支出予算

(収入)

項目	H29 予算	H28 予算	差引
前年度繰越金	76,267	63,710	12,557
年会費	300,000	340,000	△40,000
総会参加費	412,500	450,000	△37,500
新年親睦交流会参加費	262,000	264,000	△2,000
雑入	4,233	4,290	△57
計	1,055,000	1,122,000	△67,000

(支出)

項目	H29 予算	H28 予算	差引
通信費・特典	300,000	340,000	△40,000
総会費	400,000	455,000	△55,000
新年親睦交流会費	300,000	277,500	22,500
予備費	55,000	49,500	5,500
計	1,055,000	1,122,000	△67,000

■平成28～29年度 役員体制

番号	役職	氏名	備考	番号	役職	氏名	備考
1	会長	藤原 國平		10	理事	高木 弘	
2	副会長	岩下 富恵		11	理事	土屋 芳雄	
3	副会長	小林 建夫		12	理事	小池 脩一	
4	副会長	持田 寿晴		13	理事	高藤 貴視	
5	理事	小松 潔		14	理事	山城 弘枝	
6	理事	小賀坂道邦		15	理事	高木 清一	
7	理事	高橋 邦子		16	監事	森 則子	
8	理事	岡田 庸利		17	監事	寶井 護	
9	理事	湯本 信子					

5月8日の樽滝落水に併せて、藤原会長が企画・実施した「木島平村への旅行」に参加された、昭島市行政相談員の原茂様から寄稿がありましたので掲載します。

## 木島平村と飯山の旅

昭島市 原茂 富明

私は平成21年から総務省の行政相談員を昭島市で委嘱を受け、役に立つ仕事も出来ないまま現在に至る訳ですが、普段から三鷹市の4名のベテラン相談員には親切な教えを受けております。

代表の藤原さんから5月7～8日「木島平村への旅」のお誘いを受け早速申し込みをしました。

ご自分の故郷を懸命に紹介されている姿は、謙虚の中にも訪れた人の心に豊かな安らぎを提供されていることを実感する旅でありました。

一日目、栗で有名な小布施町を初めて訪れました。観光地として町並みがよく整備され魅力一杯で、お昼の栗ご飯と落雁が最高でした。

高野辰之記念館は、文部省唱歌の「故郷」「朧月夜」「春の小川」「春が来た」「紅葉」「日の丸の旗」等心に刻んでいったのだろう、今回の旅行参加者で合唱した「故郷」で、幼少時代が蘇りました。

残雪の山々を背景に咲き乱れる「菜の花畑」は雄大な絵画のように立ち竦んでしまいました。

更に、秘湯と言われる「馬曲(まぐせ)温泉」望郷の湯の露天風呂は眺望が最高で体の芯からリラックスでき、温泉の極致ではないかと感じました。



遡ること五十四年前、私が大学在学中に茶道に興味を持ち、サークルの夏合宿に飯山の「正受庵」を訪れ、当時の十一代住職の酒井盤山さんと夜更けまで人生を語り合った事を思い出しました。

言したところ了承をいただきました。

臨済宗で苦境を救済した僧侶の一人に白隠禅師がいた事を詳しく知らず、最近人気絶頂の一風変わった絵を描くお坊さん位に捉えていました。

しかし座禅をするとき必ず白隠禅師座禅和讃を唱え繰り返すうち、他のお経と違いわかりやすく、私のような凡人でも僅かながら意味を感じられる様になりました。

先日も上野の博物館で「禅」という展覧会を見て禅の教えの一端を知り、日々の暮らしの中で誰でも分かりやすい言葉と身近な生活課題をテーマにして導き、豊かな気持ちと安らぎを与える事が実践されていた事が後から分かりました。

正受庵の開山である道鏡慧端は松代城主真田信之の庶子と伝え

られ、江戸時代の臨済宗の僧侶で寛永十九年（1642年）飯山城にて出生し、正受老人の名で知られています。

十九歳で出家し、至道無難などの指導を受け、臨済宗中興の祖と称される白隠慧鶴の師で、白隠が大悟したと思い込み慢心していたところを厳しく指導し、正しい悟りに導きました。

白隠は初めての悟りの後の修行（悟後の修行）の重要性を説き、生涯に三十六回の悟りを開いたと自称、飽くなき求道精神は「大悟十八度小悟数知らず」という言葉で現代に伝わっています。

また、これまでの語録を再編して公案を洗練させ、体系化しました。

中でも、自ら考案した「隻手音声」と最初の見性体験をした「趙州無字」の問いを、公案の最初の入口に置き、以後の修行者に必ず参究するようにさせました。

また、菩提心（四弘誓願）の大切さを説きました。菩提心のなき修行者は「魔道に落ちる」と自身の著作に綴っています。

彼は生涯において、この四弘誓願を貫き通し、民衆の教化および弟子を育てました。

広く民衆への布教に努め、その過程で禅の教えを表した絵を数多く描いたことでも知られ、「達磨図」は有名であり「大燈国師像」は代表作であります。

~~~~~

木島平の自然と正受庵での人間の営みを体感して、こんなに味わい深い旅行があっただろうか。ありがとうございました。